



# Hāf a A d a i

令和5年11月27日  
グアム日本人学校  
学校だより  
12月号  
校長 井手瑞樹

## 言葉の魔力・心に響く言葉

言葉のもつ影響力の大きさは、世間ではよく取り沙汰される問題であり、現象でもあります。何気なく言った言葉が、相手に不快感を与え、時にはその人を立ち直れなくしたりすることもあります。学校でも、一般の社会でもいじめに発展することはよくある話です。一方で、その言葉によって元気づけられ、思わぬ力を発揮することもあります。



言葉には良くも悪くも、魔力があると感じることは多いものです。我々学校現場の人間にとっては、言葉は教育の最大の手段であることに間違いありません。

もし、教師が、子どもたちに対して、その子の欠点ばかりを指摘し続けたとしましょう。その子はどのようなでしょうか。多くの場合、自信をなくし、意欲を失い、自暴自棄になって本人の成長からはほど遠い結果となることは容易に想像できます。親と子の関係においても同じことです。

世界には、様々な差別が存在します。人種差別、性差別、職業差別、身分差別など、枚挙にいとまがないほどです。人間の持つ弱さと言ってしまうえばそれまでですが、国と国の戦争につながることもあるほど、重大な問題であるといっても過言ではありません。身近なことと言えば、差別用語やヘイトスピーチといった言葉による表現に、その差別意識が表れます。本来人間が心のどこかにもっているものかもしれませんが、それをよしとすることはできません。何とか無くそう、少なくとも表には出さないようにしようとするのが、人間のもつべき正しい姿であると思います。

グアム日本人学校でも、子どもたちの間に差別的発言があるようです。我々日本からの派遣教員には、残念ながら「英語」の持つ意味に理解不足のところがあります。また、その言葉自体が発せられていることになかなか気づきにくいところがあり、その点は申し訳なく思っております。一方で、本校児童生徒のご家庭には、英語を主に話されるところも多く、英語でコミュニケーションをとる子どもたちが多くいます。日本人学校ですから、日本語を身に付けるためにできるだけ日本語を使いましょうと呼びかけていますが、それを強制することはなかなかできません。したがって、我々教師が知らないうちに、例えば、F-wordが発せられていたという事実がありました。当然ながら子どもたちは落ち着かなくなります。授業に集中できないことがたびたびありました。ネイティブの先生方を通じてその事実を教えていただき、子どもたちに対して、個人的に、あるいは集団全体に対して、使用すべきではないことを指導しています。ご家庭でもどうか機会あるごとにご指導をお願いしたいと思います。



いずれにしても、人々を力づけるような素敵な言葉を使い合いたいものです。先日のWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）では、大谷選手の、選手たちに向けた言葉が話題になりました。「私もそうですが、皆さんがメジャーリーグの選手たちに憧れをもつのはよく分かります。しかし、我々はこの試合に勝利するためにやってきました。ですから、今日だけは憧れるのをやめましょう。」この言葉は実にすばらしいと思います。おそらくその影響が大きかったに違いありません。見事日本代表は優勝勝ち取りました。



人類の幸せのために、そしてグアム日本人学校の子どものための将来のために、心に響くすばらしい言葉を使いたいものだと思います。